

施策評価シート（平成27年度実績評価）

◎ 施策の基本情報

| | | | | | | | | | | |
|---------------|-------|---|-----|-----------|-------------|------------------------------|-----------|-------|-------------|-------|
| 総合計画 中期プラン | 政策No. | 3-2 | 政策名 | 学校教育の充実 | 政策の 目指す姿 | 夢と希望を持ち、たくましくいきいきと育っています | 施策 主管課 | 小中学校課 | 施策主管 課長名 | 沼田 弘二 |
| | 施策No. | 3 | 施策名 | 特別支援体制の充実 | 施策の 目指す姿 | すべての児童生徒が、毎日いきいきと学校生活を送っています | 関係課名 | | | |
| | 現状と課題 | ・不登校、別室登校児童生徒数は減少傾向にあるものの、児童生徒を取り巻く環境の変化とともに、その原因は多様化・複雑化しています。 ・LD(学習障害)、ADHD(注意欠陥多動性障がい)等の軽度発達障がい児を含め、障がいの多様化と保護者ニーズの多様化が進んでいることから、通常学級に在籍する特別支援対象児が増加し、学校における受け入れ態勢の確保が課題となっています。 | | | | | | | | |

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取り組み実績

| |
|---|
| (1)学校適応指導の充実 ○教育相談の充実(風の子ひろばに5名の教育相談員を配置) ・問題を抱える児童生徒及び保護者への教育相談や特別な支援が必要な児童生徒に関する巡回指導の実施 ・適応教室(風の子ひろば)において、通級する児童生徒の学習、生活指導を行う ○生徒支援員による不登校児童生徒への支援の充実(小中学校課に1名、不登校児童生徒を抱える学校に5名の生徒支援員を配置) ・各教育機関と連携し、不登校児童生徒に直接指導を行う (2)特別支援教育の推進 ○研修会等の実施による特別支援教育の理解促進 ・発達検査法講習会の実施(7名参加) ・ふれあい共育推進員連絡会の実施(2回) ○特別支援教育支援員による児童生徒の個に応じた支援の充実 ・障がいのある児童生徒のニーズに応じて、学習生活上の支援を行う「ふれあい共育推進員」を45名配置 |
|---|

2 成果指標

| 成果指標名 | 成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか) | 成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか) | 単位 | 数値 区分 | H23 | H24 | H25 (基準年度) | H26 | H27 | H28 |
|----------------|---|------------------------------------|----|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|------------------|
| | | | | | | | | | | |
| 不登校児童生徒の出現率 | 問題行動等調査は、文部科学省において児童生徒の行動実態を把握するために毎年実施しており、不登校児童生徒の状況を測る指標として適当 | 不登校児童生徒(年間30日以上欠席した児童・生徒)数/全児童・生徒数 | % | 目標値 | | | | 小0.20 中1.53 | 小0.15 中1.43 | 小0.10 中1.33 |
| | | | | 実績値 | 小0.15 中1.67 | 小0.23 中1.60 | 小0.23 中1.63 | 小0.13 中1.75 | 小0.26 中1.85 | |
| 個別の教育支援計画作成の割合 | 特別支援教育体制整備状況調査は、岩手県においてその状況把握のために毎年実施しており、個別に支援を要する児童生徒への支援状況を測る指標として適当 | 障がいのある児童生徒の個別の教育支援計画を作成している学校の割合 | % | 目標値 | | | | 小60.0 中45.0 | 小80.0 中70.0 | 小100.0 中100.0 |
| | | | | 実績値 | 小56.3 中45.5 | 小31.6 中45.5 | 小42.1 中20.0 | 小52.6 中81.8 | 小36.8 中27.3 | |
| | | | | 目標値 | | | | | | |
| | | | | 実績値 | | | | | | |
| | | | | 目標値 | | | | | | |
| | | | | 実績値 | | | | | | |

3 成果指標の達成状況

| 達成度 | 達成状況に関する背景・要因 |
|-----|--|
| D | <p>■成果指標「不登校児童生徒の出現率」・・・【到達度 小学校c 中学校c】 小学校については、増加している。全欠状態が継続している児童など、対応が難しいケースが増えたためと考えられる。中学校については微増傾向が続いている。県や全国に比しての出現率は低い状況を維持しているものの、小学校同様、対応が難しいケースが増加していることが要因として考えられる。</p> <p>■成果指標「個別の教育支援計画作成の割合」・・・【到達度 小学校c 中学校c】 校長会議や特別支援コーディネーター研修会等での継続した周知を行ってきたが、計画作成への理解が深まるにつれ、自校の計画の不備に気付いたことが要因として挙げられる。また、中学校においては、調査後に作成したケースや対象生徒が在籍していないケースも含まれている。</p> |

